

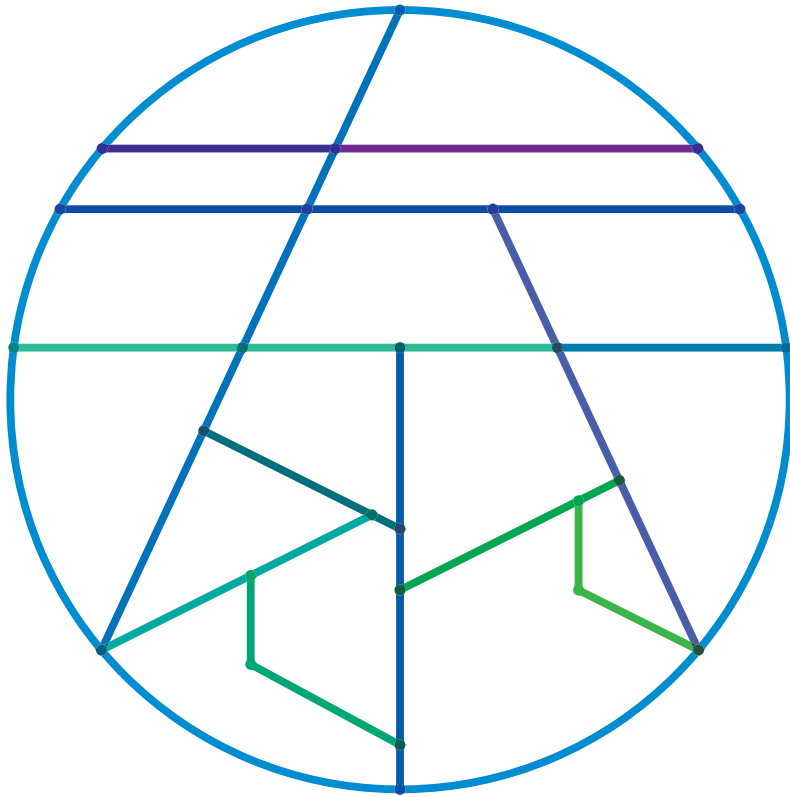
泰有通信

TAIYUSHA NEWS

街の未来を考える

vol / 09
2025 Spring - Winter

泰有社が発行する
創造拠点の最新ニュース



TOPICS

弘明寺

「橋の上の、弘明寺市場」から「マチノテコ」オープンまで
弘明寺リレートーク2026 レポート

関内

入居者ファイル

「ジャズと街の記憶と記録」企画展が泰生ビルで開催

「橋の上の、弘明寺市場」から「マチノテコ」オープンまで 弘明寺

歴史と新しい文化が交差する弘明寺の1年間

レポート+インタビュー



建築家ユニット「AKINAI GARDEN STUDIO」が設計した屋台と、弘明寺に鎮座する金剛力士像をモチーフにしたロゴがマルシェを彩りました

2025年1月26日(日)、弘明寺かんのん通り商店街にある観音橋・さくら橋の上でマルシェイベント「橋の上の、弘明寺市場」が初開催。「水谷マンション」の「AKINAI GARDEN STUDIO」、ダバンテス・ジャンウィルさんが実行委員として準備をしてきました。初開催のマルシェの様子をWEBマガジンの再編でお伝えします。

また、その約1年後の2026年2月に、ダバンテスさんが橋本彩香さんと二人でコミュニティスペース「マチノテコ」をオープン。1年の手応えと今後をお聞きました。

市場が地域と出店者・来場者をつなぐ架け橋に 全文はWEBで

挑戦を歓迎する弘明寺の魅力

「下町情緒あふれるこのまちで日常の豊かさを感じてもらい、弘明寺のエネルギーを次の世代へつなげたい」。そう話すのは実行委員長のダバンテスさん。弘明寺に移り住んだのは2021年。クリエイティブティ最大化を目的とする有期シェアハウス「ニューヤンキーノタムロバ」入居を経て、退去後も弘明寺に住み続けています。

初開催日は強風があったものの、青空が広がるマルシェ日和。珍しい野菜ドレッシングや手作りキャンドル、ワークショップ体験ブースに人気が集まり、来場者からは「普段見られない商品に出会えて楽しい」といった声がありました。



アート雑貨や花々など、ふだんの商店街とはちょっと違う品々が並ぶ

独自のデザインでマルシェを彩る

イベントの特徴の一つが、独自にデザインされた屋台です。建築ユニットのAKINAI GARDEN STUDIOが中心となって設計したこの屋台はシンプルながらも、マグネットで出店者がメニューやチラシを簡単に貼り付けられる仕様。また、軽量の商品を吊るすことができる丸棒も備えており、多様な商品展示が可能です。

ロゴも、地元出身の図案家・鈴木大輔さんが手掛けました。弘明寺にある横浜市指定有形文化財の金剛力士像をモチーフに、力強く、かつポップな赤色が印象に残ります。

横浜弘明寺商店街協同組合理事長の小林宗之さんは「この市場は、商店街に新しい風を吹き込んでくれる。若い世代のアイデアと店主の経験が融合すれば弘明寺の魅力さをさらに高められます」と期待。月に一度の橋渡しが、人々の心と心を、そして過去と未来をつなぐ架け橋となることを見えた一日でした。

取材・文：宮島真希子／編集：中尾江利(voids)／写真：菅原康太

オリジナル設計の屋台は、出店者たちのユニークな商品の色合いを引き立てるおしゃれなデザイン

このまちで、大きな力をつくる

「テコ」の役割を

マチノテコ特別インタビュー



ダバンテスさん(左)と橋本さん(右)。スペースはDIYで改装しました

橋の上の、弘明寺市場から1年

橋本 私はタムロバのコンセプトに惹かれて2024年に入居しています。小説家になる夢を叶えるため、自分の環境を変えました。弘明寺の皆さんはやりたいことを応援してくれる。この環境を手放したくないと思って、タムロバ卒業後も弘明寺で活動しています。

ダバンテス 橋の上の、弘明寺市場をきっかけに、まちの人とのつながりが深まりました。小林さんが弘明寺の副住職さんと僕をつなげてくれましたし、いまは近隣の特別支援学校や市立南図書館ともつながりができました。

橋本 出店者の皆さんが本当に優しくて、終了後に屋台の解体で協力したり、声を掛け合ったり。常連のお客さんが「ここでなら挑戦できる」と出店者になってくれたこともありました。

ダバンテス 金物店「さいたまや」が閉店すると聞き、「何かをやれるスペースとして貸してください」と泰有社に頼みました。そして、2026年2月に、橋本と二人でさいたまやをマチノテコというコミュニティスペースとしてオープンしました。

橋本 弘明寺には、最初の一步を踏み出せずにいるけれど、何かをやりたいという想いをもった人はたくさんいるなと感じていました。そんな人たちに小さな力を加えたら、テコの原理のように大きな力になるのではないか。マチノテコはそんな思いで名づけました。

人生をちよつと変える手助けや後押しになれるといい

ダバンテス ここはイベントが行われたり、ギャラリーとして個展が開かれたりと、さまざまな楽しみ方ができる場所。なにかを始めたい人が挑戦できるレンタルスペースとしても活用できます。「まちの案内所」をイメージしていて、商店街で買ったコーヒーや和菓子を持ち寄り、まちの景色を眺めながら作業やおしゃべりをしたりしてもいい。営業時間は11～18時が中心で、19時以降は何かをやりたい人向けの時間にしたいですね。フリーテーブルやシェア本棚、リソグラフ印刷機もあるのでZINE作りもできます。いずれは100人が弘明寺で同時多発的に企画をやる「100フェス」開催が野望です。

橋本 「これが好き。やってみたいかも」といったことを相談してもらえれば、私たちが実現に伴走するし、失敗しても大丈夫。皆さんが挑戦できる場所になったらいいな、というのがマチノテコが目指すところ。単に若者が新しいことやっているまちではなくて、古き良き人の温かさがあるうえで文化が混ざり合っている。そんな文化のある弘明寺を夢んでいます。

ダバンテス 「人生に迷ったら一度は弘明寺に行こう」と言われるようになったらうれしい。この場所が、自分の納得いく人生を歩む手助けや後押しとなるきっかけになればいいですね。



マチノテコのギャラリースペース。橋本さんの小説も並ぶ

取材・文・写真：中尾江利(voids)



2026年1月31日(土)と2月1日(日)、GM2ビル2階の「アートスタジオ アイムヒア」で行われた「弘明寺リレートーク2026」。主催は横浜国立大学の「地域連携推進機構ネクスト・アーバン・ラボ」。同大学教員で彫刻家・評論家の小田原のどかさん企画のプロジェクト「地域社会と芸術の関わりを考える」の一環として開催されました。

1日目

商店街の理事長を務め、弁当・惣菜店「あしな」を営んでいます。協同組合の前身は、1945年に発足した任意団体「銀星会」。横浜大空襲で各地が焼け野原となるなか、弘明寺は奇跡的にその難を逃れられたと聞いています。

私は2023年に理事長に就任しました。理事長の仕事は、年間のイベント運営に向けた補助金申請や、学校など地域の人々との協働です。大変さはありますが、ふれあいのなかでまちが盛り上がっていくのは楽しい。私は食事や酒も基本は生まれ育った弘明寺で、と決めています。弘明寺の魅力は人間臭さで、密な人間関係こそが地域の原動力だと思うからです。近年は泰有社の取り組みでアートスタジオや若い人のお店も増え、「橋の上の、弘明寺市場」を機に新しい客層も見られます。これからも活動を重ね、若い人が集まるまちにしていきたいです。

皆さんそれぞれの個性や表現が、
安心あんじんを伝える方便あんべんのもの



美松寛大さん
(瑞應山蓮華院弘明寺の副住職)

弘明寺の魅力は人間臭さ。
密な人間関係が商店街の原動力



小林宗之さん
(横浜弘明寺商店街協同組合の理事長)

瑞應山蓮華院弘明寺の副住職として真言宗の教えを伝えています。常日頃から、永續する心の安らぎである「安心あんじん心」を与えることが僧侶である私の役割だと思っています。

「曼荼羅」をご存知でしょうか。これは、一人ひとりが役割を全うして世界を成り立たせる姿そのもの。自分がその一部に在ると知り、満たされる感覚が安心です。

本質性を伝えるための手段が「方便」であり、人々は自らの本質や世界の理に気づくと安心を得るものだと思います。それ故に皆さんそれぞれの個性や表現が方便になり得ます。私は書道を大切にしています。自分が書いた字が人々に安心を与えることを願って筆を執っています。

弘明寺はかつて「求明寺」と書いたともいわれ、「弘誓深如海」*という観音様のお経より、「弘」があてがわれ現在の表記となったといわれております。光を求めて寺を訪れ、自分の役割を知って心満ちて帰る時、人は安心を広める側になる。そんなことを思い描きながら、このまちで僧侶を続けています。

*読みは「くぜいじんによかい」。観音様が人を救おうとする誓いが海の如く深いということ。

弘明寺の現代美術家やクリエイターにとどまらず、多種多様な人びとが集まり、その活動をリレー形式で伝えた本イベント。2日間で聴衆約100名が来場する盛況でした。その熱いトークの一部をお届けします。



アーティスト・クリエイターの創造力で、
ビルとまちが変わった



伊藤康文
(泰有社)

私は平たく言えばビルのオーナー業をしています。2000年頃に泰有社に入社し、ビルの運営を担ってきました。かつては不動産会社任せで入居審査をするだけでしたが、リーマンショックを機に空室が増え、自ら仕掛けなくては、と感じました。

ある日、新聞で「芸術不動産事業」を知り、横浜・関内でアーティストやクリエイターの誘致に乗り出しました。彼らによるリノベーションでビルが生まれ変わり、その創造力の凄まじさを僕は確信しました。

関内での動きを2018年から弘明寺にも広げ、ビルのリノベーション、現代美術家・渡辺篤さんや小泉明郎さんの入居、そして「ニューヤンキーノタムロバ」の誕生へとつながりました。同業者には「敷金礼金などの慣習を見直して創造力豊かな人たちに物件を開放すると、まちが変わる」と伝えたい。自慢させてください。ここにいる人たちこそ僕らの財産です。

トーク会場となった
アートスタジオアイムヒアにはこたつも準備され、
アットホームな雰囲気。
ほぼ満員となる盛況でした



2日目

創造性に蓋をしてしまった人見知りの自分。
タムロバで変わりたい



ひろさん
(ニューヤンキーノタムロバ
コミュニティビルダー)

幼い頃から絵を描いたり作ったりするのが大好き。それが高じて、雑貨店のポップを作る仕事をしています。美大ではイラストや文章、身体表現まで自由に創作できたのに、社会人になって創造性に蓋をするように。極度の人見知りもあって自分を変えたいと悩んでいました。

そこで見つけたのが1年限定のシェアハウス・ニューヤンキーノタムロバ。挑戦する人が集う場で、入居者を支えるコミュニティビルダーをしています。住み始めると、次第に心が“びろがっている”と感じる瞬間が増えました。タムロバでは人の悩みを聞いてメモを残したり、イベント用の看板を描いたりしています。橋の上の、弘明寺市場や子ども食堂での活動にも参加しました。

私になりたいのは、同じ目線で人を支え、話すことが苦手でも人と関わろうとする人。タムロバ卒業までにもっと自分を好きになりたいと思っています。

私は宮城県仙台市出身です。仙台市は彫刻のあるまちづくりで知られ、私にとって美術とは、彫刻がある公共空間で自由に過ごすものだという原体験があります。人はなぜ、数千年にわたり人を模した彫刻を社会の中に必要としてきたのか。それを考え続け、研究や制作を続けています。2024年には横浜国立大学教員となり、公開講座を続ける中で大学が外に出る必要性を実感しました。

今まで私は渡辺篤さん・小泉明郎さんの批評などを書いてきて、興味深い現代美術家のスタジオがなぜ弘明寺にあるのかと疑問を抱きました。調べると、泰有社さんの存在を知り、本学開校の地が弘明寺で附属学校もあること、タムロバをはじめ多様な表現者がいると知りました。

私は大学を地域に開き、さまざまな美術家が活動の持続や休息を選べたり考えたりできる場所をここでつくりたいと思っています。商店街や寺院といった歴史をもつこの地で、社会と芸術が関わり、社会を前進させる実践を続けたいですね。

社会と芸術の関わりを紐とき、弘明寺に大学の機能を開きたい



小田原のどかさん
(彫刻家・評論家)



「マチノテコ」では展示も

コミュニティスペース「マチノテコ」では、登壇者たちの創造性が詰まった作品展示も。横浜市南図書館から借りた昔の弘明寺の姿を伝える写真や、橋の上の、弘明寺市場の記録写真、建築家が製作した設計模型、絵画作品など……。トーク同様、その多様さに驚きます。マチノテコには300名以上が訪れました。



登壇者

1日目/

株式会社アキナイガーデンスタジオ(建築家)、スリパチ(建築コレクティブ)、飯島大地(再生家)、中戸川伸一(横浜国立大学教育学部附属特別支援学校長)、小林宗之、ダバンテス・ジャンウィル(橋の上の、弘明寺市場実行委員長)、MIA、伊藤康文、渡辺篤(現代美術家・社会活動家)、美松寛大、小泉明郎(アーティスト)、小市聡(前横浜総合高校校長・NPO法人体験活動サポート開港場代表)、Aki Iwaya(アーティスト)

2日目/

橋葉まんぼー(小説家)、FJMY(表現者)、小田原のどか、藤岡佳祐(横浜市職員)、山田千永(漫画家)、菊池真理(横浜市南図書館司書)、大崎エクサム杏仁花(プロデューサー・ライター)、高橋優弥(フリーター)、ぴろ、犬山さき(アーティスト)、Syuheinoue / Studio neutral(フォトグラファー)、永野凜(日本語教師・旅好き)、井上須美(システムエンジニアなど)、百崎佑(PEACH COFFEEのオーナー・パリスタ) *登壇順

入居者ファイル

関内

全文はWEBで

2025年にWEBマガジンに掲載したさまざまなスペシャリティをもつ人たちをご紹介します。「入居者ファイル」シリーズは泰有社WEBでお読みいただけます。



大西章夫さん シンコービル
(特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜)

大西章夫さんは55歳で絵画修復に出会い、NPO美術保存修復センター横浜の代表理事。NPO美術保存修復センター横浜は絵画やアイコンなどの修復・保存を手がけ、修復教室や子ども体験教室も開催する。作品と持ち主の思いを未来へ伝えるため、画家の考えや持ち主の背景にあるものを考えながら修復していく。

取材・文：齊藤睦志(株式会社クラフトワークス) /
編集：中尾江利(voids) /
写真：大野隆介

トキワビル 伊藤一さん、新村繭子さん、笠原彰二さん
(ミュージッククロニクル Yokohama(ちぐさ保存会))

老朽化で建て替え中の「ジャズ喫茶ちぐさ」(野毛)のレコードと音響機材を守るため、2024年10月に発足した「ちぐさ保存会」メンバー。関内・トキワビルに拠点を移し、3,500枚超のレコードを誰もが聴けるリスニングルーム「ミュージッククロニクル Yokohama」をオープンした。ジャズ喫茶文化を「大事な横浜の文化遺産」として継承している。



写真：大野隆介



トキワビル 小林大輔さん、小林敦子さん
(mint deli)

食品メーカーでカレー開発に携わった小林大輔さん・敦子さんが、2025年5月からトキワビル1階「Bar HUG」をランチタイムに間借りして営業するカレー店「mint deli」。良質な素材で毎日丁寧に調理されるスパイスカレーやサブジは「本格的だけど体に負担がなく食べやすい」と幅広い年代のカレーファンが訪れる。

写真：大野隆介

トキワビル 安達雅朗さん
(株式会社インディゲンス)

2020年創業のWEBマーケティング企業「インディゲンス」の理念は「感動のファンファーレを」。ブランドの価値づくりのために、戦略づくりから実行まで、やれることはなんでも伴走中。大事なことは「誰かが感動するかどうか」。起業した仲間とともにDIYした4人用のデスク、テレビ台や棚、動画撮影スペースをもつオフィスは脳がひらくような感覚だ。



写真：森本聡



トキワビル 松本郁里さん 養生ホーチ
(株式会社横浜インテリアサポートセンター)

インテリアコーディネーターの松本郁里さんは、2024年に横浜インテリアサポートセンターを設立。お客さまの要望に合ったインテリアを提案したり、不動産物件や宿泊施設のPR写真の魅力を引き立てるホームステージングを手掛けたり……。住空間のことなら何でも相談できるプロフェッショナルだ。

写真：森本聡

トキワビル 関和明さん
(関東学院大学名誉教授/きたのりのまなびや)

横浜赤レンガ倉庫や横浜山手西洋館の保全・活用調査に携わり、都市と建築の歴史を見つめてきた、建築史家・建築家。再開発が進む関内にあるトキワビルにスタジオを構えながら、北海道・東川町との二拠点で活動中。東川町では自由な学舎「きたのりのまなびや」を構想し、いつか「小さなバウハウス」にしたいと語る。



写真：大野隆介



トキワビル 阿部剛士さん
(阿部工房)

建築技術者として横浜の街を支える一方、横浜の創造都市構想を象徴した拠点「BankART1929」との出会いをきっかけに、2009年から制作活動も始めた。産業廃棄物からチラシ、レシートまで……。あらゆるものを作品に変える阿部さんがアトリエで手を動かすその姿は、横浜の創造都市構想が育んだ流れを受け継いでいる。

写真：前川俊幸



「ジャズと街の記憶と記録」

関内

企画展 が泰生ビルで開催

横浜にある、現存する最古のジャズ喫茶「ちぐさ」には、常連客が全国のジャズ喫茶を巡って蒐集した喫茶店のオリジナルマッチが寄贈され、当時の文化を物語る貴重な品として保管されています。

それらのマッチをモチーフにして、泰生ビルに入居するフォトグラファー・松本祥孝さんが撮影した写真を展示する企画展「ジャズと街の記憶と記録」が開催。写真のそばには、かつてANAの機関紙『翼の王国』連載などで数々の印象的な文章を残し、2025年8月に他界した文筆家・佐伯誠さんの文章が添えられていました。横浜のまちの記憶を伝える展示の一部を、写真でお届けします。

写真：松本祥孝



フォトグラファーの松本さんが、マッチをモチーフに撮影した静物写真が並び



往時の横浜を写した松本さんの写真に佐伯さんのテキストが並び、関係ないはずの写真とテキストの間に化学反応が起きているように感じられました



会場内にあるピアノの上には、実際に寄贈されたマッチが置かれていました



会場は、泰生ビル1階にあったカフェ「I'm home」。再開が予定されているこの店舗を、企画展のために開きました

イベント概要

日時：2026年1月16日(金)～18日(日)、23日(金)～25日(日)

時間：16日 15:00～21:00 / 17日・23日・24日 12:00～21:00 / 25日 12:00～20:00

会場：I'm home(泰生ビル1階)

入場料：無料(ただしドリンクオーダーが必要) 期間中、トークイベントやライブもあり(別途チャージ代がかかります)

主催：ミュージック クロニクル Yokohama(トキワビル2階101号)

告知

『泰有社ビル クリエイター図鑑』(仮)

2026年度内の発売に向けて出版プロジェクトが進んでいます。
泰有社のビルに入居する、クリエイターにスポットをあてた1冊です。
ご期待ください！

仕様 B5判 / オールカラー / 200ページ前後予定

定価 2000円前後を予定

泰有社は不動産事業をとおして、コミュニティを育むまちづくりを目指します。

2026年5月12日発行 発行：株式会社 泰有社 企画・編集：株式会社ボイズ デザイン：HFUdf